

## 令和3年度 第4回文京区アカデミー推進協議会 会議録

日時	令和3年9月17日（金）書面開催
委員	山田徹雄委員◎、田中雅文委員○、青木和浩委員、増田純委員、三浦武裕委員、井上充代委員、酒井宏委員、高澤芳郎委員、牧野恒良委員、小能大介委員、関誠委員、内藤雅義委員、佃吉一委員、杉田明治委員、増田みゆき委員、清水恵一委員、小西明子委員、彼島巽委員、水木優香委員、富田直美委員、田口稔己委員、柳下幸一委員、堀正孝委員、山内豊委員、高橋由貴子委員、小島えりか委員、今井瑛里子委員（◎会長、○副会長）
幹事	高橋征博アカデミー推進部長、細矢剛史アカデミー推進部アカデミー推進課長、堀越厚志アカデミー推進部観光・都市交流担当課長、川崎慎一郎アカデミー推進部スポーツ振興課長、齊藤嘉之教育推進部真砂中央図書館長
資料	資料1            文京区アカデミー推進計画素案（案） 資料2            意見等記入様式

### 会議内容

以下、書面会議のため分野ごとに委員名とご意見を列記する。

#### 1. 文京区アカデミー推進計画素案（案）について

##### （1）総論

##### ①基本理念

委員名	ご意見
田中副会長	<p>○枠内の部分で、「多様性を活かし」と書くと、本文中の「多様なニーズ」と混同されてしまう可能性があり、そうでないとする「何の多様性か」本文に説明がないので分かりにくくなる。したがってここは、本文と表現を合わせ「多彩な資源を活かし」のほうがよいと思う。</p> <p>○3段落目の最後のほうの「踏襲し」は「踏襲するとともに」のほうがよいと思う。</p> <p>○3段落目の最後は「目指す」だと、その主語は「区民」なので区民に命令しているように感じられる。そこで、主語は文京区だということが分かるように「目指す」ではなく「促す」がよいと思う。</p>
三浦委員	<p>○私は、文京区の素晴らしいところは、区と区民が当該活動に於いて、協働しながら協創をはかっていく点にあると常々考えている。ついては、基本理念に是非とも、「協働と協創」の概念を入れてほしい。例えば、「だれもが・いつでも・どこでも人とのつながりと</p>

委員名	ご意見
	心の豊かさを育みながら、協働と協創により、新たな価値を創造することを」では如何か。
山内委員	○領域、新たな課題の設定、目的等必要なことがバランスよく配置されていると思う。
水木委員	○分かりやすくまとめられていて良いと思う。新たな価値が生まれるという文言にワクワクする感じがして、とても好感が持てる。
増田みゆき委員	○新型コロナウイルス感染症拡大からの影響について、控えめに記述されていて、良いと思う。
増田純委員	○p5.13 行目「されています」→現在進行形なので「されるようになりまし
	た」では。 ○P5.14 行目一人ひとりの「豊かさ」→何の豊かさか明記すると良いかと。心？生き方？同じページでは「豊かさ」単独ではなく「心の豊かさ」と表示してある。
牧野委員	○6. 基本理念の第三段落では人と人とのつながりや心の豊かさの重要な理由が、新型コロナにより新たな生活様式を余儀なくされているから、とボヤっと書かれているが、「マスク着用により人の判別がしにくい」とか「対面で会えない、飲み会が出来ないなどこれまで普通に行われてきた人同士の交流を制限されている」ことが明解な原因だと思う。表記においては読む人が頭を働かせてこのような事を言っているのだろうと想像しながら読むことを想定して作成するのか、一目見て分かりやすい文章を目指すのかで表現は変わってくるのではと思う。

## ②3つの視点

委員名	ご意見
田中副会長	○2行目の「多様性を活かし」は、何の多様性を活かすのか分からないので、削除してはどうか。 ○本計画は「つながり」を重視しているので、(1)の下から3行目は「・・・楽しみ交流できる取組・・・」がよいと思う。 ○(3)では、「多様な主体との連携」が2度出てくる。そのため、第1段落のほうは削除すべき。具体的には、第1段落の2行目を「・・・観光資源などの活用が重要です。」とする。
三浦委員	○(3) 区の魅力や特性を活かす視点 の最後の件だが、「行政が担

委員名	ご意見
	う役割や優先順位を「地域性」などの視点から明確にした上で」 との件だが、地域性などの視点とはどのようなことを指している のか？行政が担う役割や優先順位については、どんな場合であろ うとも、明確化し推進していくことになると思うので、「行政が担 う役割や優先順位を明確にした上で」では？
水木委員	○(2)の「環境づくり」が、ICT環境のみに偏り過ぎているよう に感じた。例えば、「誰もが利用しやすい施設となるよう、インクル ーシブな環境づくりにもより一層努めていく」等の一文が入って も良いような気がする。
増田みゆき委員	○(2) ICTの活用は、コロナの影響により関心が高まった事は事 実だが、ライフスタイルの多様化等により、「各自の都合に応じて できる」という利便性から「環境づくり」が益々必要になってく る事が、これからは大きいのではないかと思う。 ○(3)「観光資源」の例を「・・・等」と挙げても良いのではない かと思う。
増田純委員	○p6. (1) 6行目「各分野」－具体的な分野が7の冒頭の部分でし か書かれていないので、しつこくても繰り返し、あるいは「上記 の」を入れた方がわかりやすいかもしれない。(3)と同じ形がい いかと思う。
関委員	○特段、ご指摘させていただくことはない。とてもよく素晴らしく まとめられていると思う。可能ならば、(1)だれもが楽しめる視 点・・・「人」の部分で、交流人口と関係人口の部分に(※)を入 れて、違いが分かるような注釈が入ると、文章を読まれた区民の 皆様も分かりやすいのではないかと思った。
牧野委員	○新型コロナをなるべく目立たないように、といった分科会での意 見もあったように、(2)の環境づくりの段に於いて、非接触型の コミュニケーションを求められている点のみ、新型コロナの影響 が書かれている。(3)の資源活用と併せて関わりが広がっていく 文章になっているのに対して、(1)の人の段は人それぞれの関心 や能力による、いわば個人活動を楽しむ内容に読め、交流やコミ ュニケーションを取ることの楽しさの言及が足りないような気が する。
小島委員	○「だれもが楽しめる視点」「いつでもどこでも活動できる視点」「区 の魅力や特性を生かす視点」という表現に違和感を覚える。視点

委員名	ご意見
	1：参加者の多様性の拡大、視点2：環境づくり、視点3：資源活用、といったように、必ずしも「〇〇できる視点」というような表現を使う必要はないのではないか。
山内委員	〇人、環境づくり、資源活用、いずれも幅広く取り上げていて、かつその連携に言及していて、まとまっていると思う。

### ③その他

委員名	ご意見
田中副会長	<p>〇大変立派な資料になっていると思った。2点気になったことがあった。</p> <p>①全体的に文京区のことだけに拘りすぎなのでは、と感じた。もう少し国や、他区、他の地域との連携などがあっても良いのではと。実際今後進めていく際には、ぜひフレキシブルな対応をして頂ければこれまでよりもっと楽しい生涯学習、生活ができるのではないかと思った。</p> <p>②地域との連携等で、「町会」という言葉が出てくるが、現在PTAでもお世話になっており痛感しているのが「町会」に関わる方々の高齢化である。また実際に若い方々が頑張っておられるところでもほんの1部の人たちで何とかなっているというのが現状だと感じている。せっかくの学習の機会を、どう発信していくのか、どのように実施していくのか、この施策の中でご検討頂けたらと思った。この問題はアカデミー推進計画に留まらず、区全体の問題かと思っている。</p> <p>ここまでの立派な資料を作っていただいたからには、ぜひ多くの区民の皆様を知っていただき参加していただきたいと思い、その為にはどうしたらと考えた時に少々不安になったので申し上げたが、不要であればお捨ておきいただきたい。</p>
牧野委員	〇推進計画のカラーで素晴らしい冊子を協議会に入るまで見たことが無かったので、なるべく多くの区民、関係人口の目と手元に届き、素晴らしい計画を区民および関係人口全体で推進していけるように望むばかりである。

## (2) 学習活動分野

### ①学習活動とは

委員名	ご意見
田中副会長	○学習活動に対応するのは生涯学習分野ではなく生涯学習だということ、「子どもから大人まで生涯に行くあらゆる学習」はそのあとに述べる趣味やキャリアアップのための学習も含むこと、という理由から、この部分は次のようにした方が良いと思う。 「学習活動は前計画の生涯学習にあたり、趣味や生きがい、キャリアアップのために、自由に選択して行う学習など、子どもから大人まで生涯にわたって行うあらゆる学習」
三浦委員	○最後の件で、「一人ひとりが豊かな人生を送ることができるよう、だれもが、生涯にわたって」とした方が、一貫性が出ると思う。
小島委員	○前計画の生涯学習から名称を変更した理由を、生涯学習との違いも含めて記載する必要があると思う。
増田みゆき委員	○「ねらい」→「目的」等の方が良いか？ と私は思うが。

### ②現状と課題

委員名	ご意見
三浦委員	○①だれもが参加しやすい学習機会の提供 の後段 「また、学習活動の核となる図書館は」は、学習活動の定義で、あらゆる場のものとしているので、「また図書館は…」でよろしいのでは？
増田みゆき委員	○p20、③の下から4行目 「・・・初心者や(知り合いがいない人)」→(知り合い等がいない人)
増田純委員	○①5行目「子育て中」「高齢者」という言葉は並列に無理があるかと思う。「子育て中(育児中?)の方」など。

### ③施策体系の考え方・④施策体系

委員名	ご意見
小島委員	○④の視点をもとにした分類が視覚的にも分かりやすく、計画の趣旨が伝わりやすいと思った。
増田みゆき委員	○③施策体系の考え方 8行目から9行目 「個人の活動からグループ、地域での活動」→「、」を「や」にした方が良いよう思う。

⑤基本方針と施策の方向性

委員名	ご意見
増田純委員	○①イ 実際に学習活動に関する情報が集約されて、紹介できる窓口があることを広く知ってほしいと思う。委員会の委員でも知らなかった。周知度はかなり低いと思う。具体的にすでにそういう場を提供しているということが入ってもいいのでは。
小島委員	○①イ デジタルデバインド対策の講座とは、対面型の講座を存続させることを意味するのか、インターネットやパソコン・タブレット等の使い方講座の開設を意味するのか。
増田みゆき委員	○①エ 環境づくり も入るのではないかと思う。 ○③ア 「学びを促進する人材を育成する」、学びを促進する人が学習して育成されるという意味で、「資源活用」の他に「人」も入るかと思う。
山内委員	○②イ 成果を披露する場をもっと広げてほしいと思う。 ○②エ 大きな重点施策として、図書館を取り上げるのはよいと思う。
牧野委員	○②イ 活動の成果を発揮できる場の充実、タイトルは「発揮」で、説明文中は「披露」、後の文化芸術では「発表」となって使い分けの基準が気になる。「披露」で統一した方がよいと考える。

(3) スポーツ分野

①スポーツとは

委員名	ご意見
—	意見なし

②現状と課題

委員名	ご意見
牧野委員	○「する」「見る」「支える」の表記は文化芸術ではすべて平仮名表記で、その方がやわらかいイメージがある、どちらにしても統一した方がよいように思う。

③施策体系の考え方・④施策体系

委員名	ご意見
青木委員	○(4) ①の項目は、全て「人」のみに「○」となっている。例えば「ウ」は資源活用も関わっているように思う。「環境づくり」と「資源活用」の線引きが難しいと思うが、スポーツの視点から説明ができるようにしていただければと思う。「する・見る・支える」から発展している形なので、「○」が複数になっても問題ないと思う。
小島委員	○「見る」ではなく「観る」ではないか。

⑤基本方針と施策の方向性

委員名	ご意見
青木委員	<p>○① 「障害者スポーツ観戦・体験イベント等」⇒障害者スポーツのみの印象を受ける。逆に差別をしているような心象を受ける。例えば「様々なスポーツ」というような感じでも良いと思う。</p> <p>○①イ 「これまでスポーツに関心がなかった障害者が・・・」こちらも障害者のみを対象にした印象がある。対象となるのは、これまでスポーツに興味なかった全ての人になると思う。</p> <p>○②ウ 確認だが「水泳、卓球～ミニテニスなど」と記載されている種目は、区の施設でできる種目という意味で記載したのか？また、「指導員を配置する」と記載してあるが、すべての種目に配置できるということか？</p> <p>○②オ 全体的にその他の項目に比べ、具体性に欠けている印象を持つ。「多様な主体」とは、何を指すのか？「多様な区民の心身の健康増進」の具体的な取り組みが見えない。内容からすると「多様な区民に対して、心や体の健康づくりを目指す」というかんじか？③のアと内容が似ているので、差別化も必要に思う。</p> <p>○③オ 「②のオ」と同様に、具体性に欠けている印象を持つ。「多様な主体」は、「スポーツ団体等や地域スポーツ等」と記載されているが、スポーツ団体と地域スポーツの違いは、何か？両者の関係性が今一つ、わかりにくいように思う。</p>
小島委員	○①ア 住民票を文京区に置いているいわゆる区民だけでなく、区内在学、在勤の人も参加対象であることから、区民・参加者という表現にするべきではないか。
関委員	○②エ スポーツ指導人材の発掘に対して、具体的な取り組み例を

委員名	ご意見
	実施している内容があれば記載しても良いのかなと感じた。他のページ他の項目などで記載があれば、見落としであるのでご容赦ください。
今井委員	○②オ 心身の健康づくりに向けて、区民が体力や運動能力を計測できる仕組みがあるとよいと思う。また、蓄積データを活用し、本人へ運動やトレーニングプランをおすすめしたり、区として整備する新しいサービスの検討ができるのではないかな。

#### (4) 文化芸術

##### ①文化芸術とは

委員名	ご意見
増田純委員	○P 44. 3～4行目 「みる」は展示物や上演・上映される作品を「観る」「聴く」ことを指し—だが視覚障害者・聴覚障害者は「みる」から除外されてしまうように感じるかもしれないので、「観る」「聴く」に加えて「感動する・あじわう」などの文言がもう一つ入れればいいかと思う。
牧野委員	○わかりやすく良い文章だと思う。

##### ②現状と課題

委員名	ご意見
増田みゆき委員	○①文章には、「令和元年度に行った調査」と入っているが、右側の表にも「過去1年における」だけではなしに、「何年」(いつ)の調査であるか記載した方がわかり易いと思う。 ○②の下方の表、できれば「いつ」の実態調査か記載があった方がよいと思う。 ○③3行目 「知ってもらおう」→「知る」で良いのでは。
牧野委員	○能プロジェクトのように能面装束体験など、モノと肌が直に触れるようなワークショップはいつになったら出来るのかと、正直途方もない思いがする。その場の空気で伝わるものが必ずある、それを伝えていくのが文化芸術団体の使命と思っている。文章は指摘ございません。
小島委員	○p. 46 それらを活用した文化芸術を生み出すという観点、とは何を指すのか。



③施策体系の考え方・④施策体系

委員名	ご意見
田中副会長	○基本方針の④は「まちづくり」という用語を用いている。それに対し、学習活動やスポーツの分野では、「地域づくり」と呼んでいる。このあたり「まちづくり」に拘るのはなぜなのか。
増田みゆき委員	○（3）施策体系の考え方、下から3行目「楽しめる」→「楽しむ」で良いのでは。5行目「様々な文化資源」、10行目にも同じ言葉があるので、2番目の「様々」を取った方がスッキリすると思う。
牧野委員	○（3）施策体系の考え方の4行目「区の文化を次代につなげる」とあるが、書面全体では「次世代」で統一されているようであるので、修正頂ければと思う。

⑤基本方針と施策の方向性

委員名	ご意見
増田みゆき委員	○①ア 人も入るのではないかと思う。判断が難しいのだが。 ○②ア 人にも○をつけるべきかと。
小島委員	○①ア 性別、年齢、障害の有無に加えて国籍も加えることで、観光分野との連携や多言語対応への取り組みをアピールできるように思う。 ○①ウ 「実践的な活動」という表現のほうが、直接的にニュアンスが伝わるように思う。
牧野委員	○②ア （2）の課題でも申し上げたが、例えば能面体験などは一人体験が終わったらアルコール消毒して次の人みたいな、消毒に耐えうる文化財ではないので、コロナが終息しても前の人が付けた物を付けるのは嫌だという人が出てくるのではないかと思う。装束も殺菌クリーニングなど出来ないし、能プロジェクトはどういう状況になったら開催出来るか、開催する場合も内容はどこまで出来るか、悩ましい所だと思う。1日で詰め込んで体験させる形ではなく、少人数で長期に渡ってなどやり方自体を変えないといけないのかもしれない。 ○②ウ 主な取組で「文化芸術活動の機会の提供」「文化芸術活動の発表機会の提供」と分けているのは、講習会と文化祭つどの差と思うが、発表する事には変わりがないのではと思う。学校や広

委員名	ご意見
	場など場所を提供する、というのは含まれないのか。

(5) 観光

①観光とは

委員名	ご意見
—	意見なし

②現状と課題

委員名	ご意見
増田みゆき委員	○②「森鷗外」は、「森鷗外館」のことか？
小島委員	○p. 58 YouTube も SNS の一種ではないか。
牧野委員	○インバウンド回復に文化芸術との分野横断の取り組みを活かしていきたい。

③施策体系の考え方・④施策体系

委員名	ご意見
小島委員	○「経験価値」とは具体的に何を指しているのか。
牧野委員	○ハイブリッド型の観光スタイルを確立とあるが、リアルに誘導するためのヴァーチャルという位置づけをしっかりと固めて頂ければと思う。

⑤基本方針と施策の方向性

委員名	ご意見
牧野委員	<p>○①イ 第1章で記載した通り「回遊」という言葉に引っ掛かりがある。</p> <p>(第1章の記載→「10. 5分野の基本方針と施策」について、観光①区内まるごと回遊の促進、「回遊」という言葉は間違っていないのだろうが、なんか回遊魚のようなイメージがあって違和感を覚えた。「遊覧」とかなら違和感は覚えない。)</p> <p>○②ア 旅マエ・旅ナカ・旅アトという表記にとってもなく共感を持って、旅行に限らずイベントもそうなのだが、前準備が大変だけど楽しく(マエ)、最中は何かと焦っていて(ナカ)、終わって</p>

委員名	ご意見
	しまった、ああ仕事が始まるという倦怠感（アト）といった心の動きもあるのではないかと思った。楽しければ楽しいほど現実に戻った時の落ち込み辛さが増す、一生繰り返さなければならない経験だが、あえてまとめて楽しむことが出来るような充実感を感じられる取り組みが出来ればとても役に立つように思った。全くお門違いの意見で申し訳無い。
今井委員	○②イ 観光情報の一分野だが、高齢者や子育て世代、障がいのある方なども楽しんで観光できるよう、トイレ、エレベーター、おむつ台、階段やエレベーター情報等々、バリアフリー情報も一元化していただくとありがたい（ユニバーサルツーリズム対応となる）
小島委員	○④イ ④の項である。ガイドの多言語対応についても主な取り組みにて言及すべきと考える。

#### (6) 国内・国際交流

##### ①国内・国際交流とは

委員名	ご意見
—	意見なし

##### ②現状と課題

委員名	ご意見
増田みゆき委員	○できればだが、「実態調査」いつ（年等）が入っていた方が良いと思う。
牧野委員	○一時的なもので終わってしまう傾向にあり、継続性を持たせる必要がある、というのがまさにその通りだと思う。そのための情報発信は定期的に継続的にすることが重要と考える。
小島委員	○「オンライン会議」を「リモート交流」に変更することで、「会議」という表現よりも幅広い交流の可能性を示すことができるのではないか。

##### ③施策体系の考え方・④施策体系

委員名	ご意見
小島委員	○「オンライン会議」を「リモート交流」に変更することで、「会議」

委員名	ご意見
	<p>という表現よりも幅広い交流の可能性を示すことができるのではないか。</p>

⑤基本方針と施策の方向性

委員名	ご意見
<p>今井委員</p>	<p>○②ア交流活動については、中高生対象から、他世代へ拡大はいか            が（某国際交流団体の方と話を聞くと、近年は退職したアクテ            ィブシニアが交流活動に参加し、継続して自発交流をしたり、観            光交流もしているとのこと）</p> <p>○③ 外国の方にとって、言語だけでなく、生活や文化習慣につい            てもサポートが必要と考える。お困りの方に向けて、ベルギー・            メヘレン市の「バディー制度」のようなものを導入するのも一案            かと思う。</p>

以上